

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 埼玉医科大学
理事長 丸木 清

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	67.9 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	320人	140人	351.5人	看護補助者	75人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	10人	17人	13.7人	理学療法士	19人	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師	77人
薬 剤 師	64人	0人	64.0人	作業療法士	11人		衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	8人		その他	0人
助 産 師	28人	0人	28.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	734人	28人	755.5人	臨床工学技士	26人	医療社会事業従事者	5人	
准看護師	48人	16人	57.0人	栄 養 士	20人	その他の技術員	36人	
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	3人	事 務 職 員	130人	
管理栄養士	20人	0人	20.0人	診療放射線技師	46人	その他の職員	71人	

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	654.8 人	3.9 人	658.7 人
1日当たり平均外来患者数	1509.4 人	51.1 人	1560.5 人
1日当たり平均調剤数	外来 837 剤 入院 651 剤	合計 1,488 剤	

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	4人
超音波骨折治療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.1

医療技術名	多発性骨髄腫に対するプロテアソーム阻害薬による治療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 再発・難治性の多発性骨髄腫に対して、プロテアソーム阻害薬であるボルテゾミブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、寛解が得られた症例については、分子生物学的手法により微小残存細胞についての評価を行う。			
医療技術名	多発性骨髄腫に対するサリドマイドによる治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 再発・難治性の多発性骨髄腫に対して、サリドマイドを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、造血幹細胞移植併用大量化学療法後の症例にも、維持療法として用い、その有用性を検証する。			
医療技術名	骨髄異形成症候群に対するシクロスポリン療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 厚生労働省科学研究「特発性血小板減少性紫斑病造血障害に関する研究班」の多施設共同研究により、骨髄異形成症候群に対するシクロスポリン療法の有効性を検討する。			
医療技術名	骨髄異形成症候群における細胞形態学的再分類	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 骨髄異形成症候群における従来の分類を、主に細胞形態学的方法でさらに発展させ、より予後に反映し、臨床的に有用な再分類をめざし検討を行う。			
医療技術名	免疫性神経疾患のリンパ球サブセット・サイトカインからみた診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 非ヘルペス性辺縁系脳炎を中心として脳炎・脳症の発症、進展にかかわる免疫機序の関与について、末梢血リンパ球サブセットならびに髄液サイトカインを検討し診断、治療に役立てている。			
医療技術名	発汗障害患者に対する軸索反射性発汗機能の検討	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 各種発汗障害患者に対し、軸索反射性発汗試験を行い発汗系交感神経節後機能を検討し診断、治療に役立てている。			
医療技術名	各種自律神経疾患における血圧・心拍の周波数解析	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者の血圧・心拍数を連続記録し、血圧・心拍の周波数解析を行っている。これらの結果から、交感・副交感神経機能を検討し、病態把握に役立てている			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.2

医療技術名	各種自律神経疾患における交感神経性皮膚反応検査	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者に本試験を実施することにより精神性発汗を検討している。この検査によって発汗の反応経路(中枢神経～末梢神経～汗腺)における障害の有無を明らかにし、診断、治療に役立てている。			
医療技術名	総胆管結石および胆管内腫瘍における術中胆管内内視鏡超音波検査	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 総胆管結石の遺残の有無や胆管内腫瘍の局在や浸潤の程度などを手術中に検査でき、通常の超音波検査に比べ有用性が高い。			
医療技術名	新たな電気メス(エンドカット)を用いた乳頭括約筋切除術	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 従来の乳頭括約筋切開法に比べ、凝固と切開が自動的に制御され、安全に出血が少なく切開できる。			
医療技術名	ハーモニックスカルペルを用いた痔核切除術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 従来の電気メス、ハサミを用いた痔核切除術に比べ、出血量が少なく手術時間も短縮でき、術後疼痛が軽減する。			
医療技術名	小児腹腔鏡手術	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプルング病、急性虫垂炎、停留精巣、腫瘍(良性、悪性)、食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症など多くの疾患に侵襲の少ない腹腔鏡下に手術を行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病(ミトコンドリア呼吸鎖異常症)の酵素診断	取扱患者数	133人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア呼吸鎖異常症は、いかなる症状、いかなる臓器・組織、何歳でも、そしていかなる遺伝形式でも発病し、出生5,000人に1人とされる最も高頻度の先天代謝異常症である。私たちは細胞、臓器、組織を用いた呼吸鎖酵素解析法を開発し、日本で唯一ミトコンドリア呼吸鎖異常症を正確、迅速に診断できることを可能にした。			
医療技術名	高頻度振動換気療法(HFO)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 新生児における呼吸窮迫症候群などの重症呼吸障害の際に使用し、自発呼吸に依存せず高頻度振動を用いて換気を行う結果、新生児の未熟な肺の損傷を軽減し換気を行うことができる人工換気法である。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.3

医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 新生児仮死で出生した児の脳に対するダメージを最小限に止めるため、出生時より脳を低温に保つ治療法 (34℃、72時間)。			
医療技術名	アフエレーシス	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 自己抗体に関連した血管炎に対する抗体除去療法としての全血漿交換、敗血症症例に対するエンドトキシン吸着、劇症肝炎に対する人工肝臓としての血漿交換・持続血液濾過透析、インターフェロン療法抵抗性、高ウイルス血症に対する DFPP、自己免疫性神経疾患に対する免疫グロブリン吸着療法など、あらゆる血液浄化法を提供している。			
医療技術名	持続血液濾過透析 (小児を含む)	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 血行動態の不安定な重症症例に対する持続血液濾過透析療法に関して、24時間対応可能な体制を維持している。専用の集中治療室 (renal intensive care unit) を備え、透析の専門知識を有する医師・看護師・臨床検査技師が常駐している。1歳未満の小児に対して、腹膜透析が困難な場合、小児科・小児外科と連携し、持続血液濾過透析を施行している。			
医療技術名	関節リウマチならびに自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与	取扱患者数	181人
当該医療技術の概要 多剤抵抗性の関節リウマチや難治性の自己免疫疾患に対して、TNF α や IL6 の阻害療法が有用であることが知られている。当科でもこれら生物学的製剤を投与することにより、従来の治療法では困難だった関節リウマチ患者の関節破壊の抑制や患者 QOL の改善、自己免疫疾患の炎症反応の抑制が可能となった。今後製剤の追加や適応拡大が期待されており、一層有効な治療法になると考えられる。			
医療技術名	体外受精	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 原則として、体外受精・胚移植法は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療である。具体的には、 ・一般的な不妊治療であるタイミング法、排卵誘発法、人工授精等を十分行ったが妊娠できなかった夫婦。 ・精子濃度が低い、精子運動性が不良など、男性因子がある場合。 ・両側卵管切除後の場合や、子宮卵管造影検査/腹腔鏡検査により両側卵管の閉塞や癒着による機能障害が確認された場合。 ・抗精子抗体が陽性で、人工授精では妊娠できない場合。 などが適応となる。 体外受精・胚移植法は、卵巣で発育した卵子を体外に取り出し (採卵)、精子と受精させ (媒精)、数日間体外で育て (培養)、得られた受精卵 (胚) を子宮内に戻す (胚移植) 方法により、妊娠成立を目的とする不妊治療である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.4

医療技術名	顕微授精	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 原則として、顕微授精は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療です。具体的には、 <ul style="list-style-type: none">・体外受精を十分行ったが受精卵が得られなかったり、良好胚が得られなかった場合・精子濃度が極めて低い、精子運動性が極めて不良など、高度男性因子がある場合・精巣内精子、精巣上体精子を用いる場合・精子-透明帯/卵細胞膜貫通障害・抗精子抗体陽性の場合 などが適応となる。 採卵した卵を前処理した後、顕微鏡下で保持する。この卵に同じく前処理した精子を細いガラス管で注入する。この方法により受精能力の低い精子でも受精させることができるようになってくる。精液中に精子が全く見つからない場合には、精巣から組織を採取してその中から精子を回収し、顕微授精を行う方法 (TESE) もある。 採卵数が多く、精子の受精能力がやや低いことが考えられる場合に、採卵した卵を2組に分けて半分を通常の受精方法、半分を顕微授精にすることがある。			
医療技術名	性器脱に関するメッシュ手術	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 TVM手術 (Tension-free Vaginal Mesh手術) は、膣の壁の下に、ポリプロピレンメッシュのシートを挿入し、そこから足の付け根や殿部 (おしり) の小さな傷 (各 5mm 程度、膣の前壁だけなら4カ所、後壁もする時は合計6-8カ所) にメッシュの腕 (メッシュの端からのびた巾 2cm の紐状の部分) を通して、骨盤底の支持組織を強化する術式。原則として子宮はとらない。手術負担が小さいこと (入院期間が短く、傷の痛みが少ない)、再発が少ない (6%) ことから、欧米で普及しつつあり、日本でも導入する施設が増えてきた。			
医療技術名	骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する経皮的人工骨注入法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 陳旧性の骨粗鬆症性圧迫骨折に対しては、内固定金属を用いた侵襲の大きな手術が必要であるが、低侵襲な手技で早期社会復帰を目指している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.5

医療技術名	嚥下シンチグラフィ	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 99mTc-DTPA 溶液を 10-80mL 嚥下した後に、咽頭、気管・気管支、肺野における残留をガンマカメラによる画像で経時的に評価する。喉頭侵入や誤嚥（食塊の声帯通過）はあるが、咳嗽や纖毛運動などにより排出機能が良好である場合は、経口摂取をしても誤嚥性肺炎を発症する可能性は低い。即ち嚥下造影検査 (VF) で誤嚥が認められても、嚥下シンチで気管支や肺野からの排出が良好であれば経口摂取可能と考えられる。			
医療技術名	音響鼻腔計測法	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 音響を利用した短時間に非侵襲的に鼻腔断面積を測定できる。抗アレルギー薬など鼻閉に対する薬効の客観的評価、手術前後の鼻腔開大効果の客観的評価などに用いている。			
医療技術名	音刺激による前庭誘発頸筋電位検査 (vestibular evoked myogenic potentials:VEMP)	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 VEMP 検査は前庭脊髄反射に対する検査法のひとつである。クリックあるいはトーンバースト音刺激を用い、胸鎖乳突筋に現れる筋電位の変化を記録する方法である。この刺激の伝達には、球形嚢から下前庭神経、さらに前庭神経核を經由して前庭脊髄路を下行し、頸筋に達する経路が推定されている。内耳機能の評価、前庭神経障害の評価、さらに下部脳幹障害の評価法となり得る可能性がある。			
医療技術名	良性発作性頭位めまい症に対する理学療法	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 良性発作性頭位めまい症の病態に関しては、クプラへの耳石片の付着（クプラ結石症）、あるいは三半規管内の浮遊耳石（半規管結石症）が提唱されている。これらの諸説を念頭に置き、難治性の良性発作性頭位めまい症に対して、particle repositioning maneuver (Parnes 法、Epley 法) や liberatory maneuver (Brandt 法、Semont 法) などの理学療法を試みている。			
医療技術名	Qスイッチルビレーザを用いた皮膚色素性病変の治療、 ならびに色素レーザを用いた単純性血管腫の治療	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要 Qスイッチルビレーザはメラニンをターゲットとし、太田母斑や他の真皮メラノサイトーシスなどの治療として有効である。色素レーザは赤血球をターゲットに血管内皮に損傷を与える治療で、単純性血管腫やほかの毛細血管拡張に対し有効である。おのおの第1選択として行っている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.6

医療技術名	天疱瘡に対する大量免疫グロブリン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 通常の治療に抵抗性の難治性症例に対し、有効である。原因となるデスモゾームに対する抗体の産生抑制、異化亢進が作用機序として考えられている。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍に対するドップラー超音波診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍では、悪性黒色腫やエクリン汗孔腫、その他いくつかの腫瘍での血管新生の特徴が明らかになりつつあり、多種にわたる皮膚腫瘍の無侵襲の検査として、鑑別診断のうえで、極めて有効である。			
医療技術名	尋常性白斑、尋常性乾癬、菌状息肉症に対する narrow band UVB 治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 narrow band UVB の有用性が知られており、尋常性白斑、尋常性乾癬、および菌状息肉症に対し行っている。			
医療技術名	新型インフルエンザPCR検査	取扱患者数	240人
当該医療技術の概要 2009年4月より新型インフルエンザ(2009 H1N1)が世界的な流行となった。そのため発熱者の診療では常にインフルエンザは考慮すべき疾患となった。 インフルエンザには簡易な迅速診断法が普及しているものの、A型とB型の鑑別にとどまる。しかし世界的流行を続けるA型インフルエンザは複数の亜型を有する。 PCR法を用いてA型インフルエンザの複数の亜型を感度よく、迅速に検出することにより、患者への負担軽減を行なう。			
医療技術名	FOP遺伝子解析	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 FOPは、2007年3月に厚生労働省特定疾患対策懇談会において難病の1つとして認定された疾患で、筋組織が骨化する疾患として知られる進行性骨化性線維異形成症(Fibrodysplasia Ossificans Progressiva, FOP)である。 小児期に腫瘍が形成されたために癌と診断されたケースが30%程度あることが判明しており、このような背景には、FOPの迅速で正確な診断法が確立されていなかったことが挙げられる。しかし、2006年、FOP患者にACVR1/ALK2遺伝子の中に共通する変異を持つことが報告された。遺伝子診断は、FOPの異所性骨化の発症前でも可能である上、迅速・正確な検査である。 発症機序の解明および治療法の確立を目指す上では欠かせない検査である。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.7

医療技術名	レーベル病遺伝子解析	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>レーベル病の検査は、蛍光眼底造影、視力検査、視野検査、画像検査、電気生理学的検査、心電図検査、遺伝子検査が行われる。</p> <p>レーベル病の急性期では、通常両目に異常が認められ、視神経乳頭は発赤、腫張し、血管は著しく拡張している。</p> <p>委縮期では、視神経乳頭の耳側の蒼白化が進行し、血管の拡張はみられなくなる。</p> <p>視神経乳頭の変異、比較的急激な視力低下と遺伝子解析による特異的なミトコンドリアDNAの変異を検査することによりレーベル病と診断する。</p>			
医療技術名	医療用アロンアルファを用いた胃静脈瘤の治療	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>胃穹窿部静脈瘤出血は止血困難例が多く、より簡便に行える方法として、医療用アロンアルファの注入による硬化療法を行っている。IRBの許可を得ており、緊急時に行える体制となっている。</p>			
医療技術名	肝性脳症に対するB-RTOを用いた治療	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>門脈圧亢進症状に伴う異常血行路による頻回な脳症の発症を予防するため、血行改変を目的に、B-RTOバルーン下逆行性経静脈的塞栓術を行う。IRBの許可を得て行っている。</p>			
医療技術名	シスプラチン製剤（ミリプラチン [®] ）とTACE肝動脈化学塞栓療法の併用による肝細胞癌の治療	取扱患者数	200人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>シスプラチンの粉末製剤とリピオドールの懸濁液を化学塞栓療法として肝癌治療に用いた場合、局所停滞率が高く、腎機能の悪い症例にも適応可能となり利点が高い事が知られている。更に、塞栓物質の注入を併用する事で腫瘍を阻血壊死させる率が高くなると考えられ、IRBの許可を得て行っている。</p>			
医療技術名	重症型アルコール性肝炎に対する白血球（顆粒球）除去療法	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>重症型アルコール性肝炎では、感染及び腎機能のコントロールが最も重要であり、生命予後に関与する。抗生剤投与、ベエノグロブリン製剤投与等でも感染コントロールがつかない時には、炎症を惹起するサイトカイン等の物質を取り除く白血球（顆粒球）除去療法が有効と考えられ、IRBの許可を得て実施している。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

高度の医療の提供の実績

No.8

医療技術名	C型慢性肝炎の宿主側因子の検討—IL28等	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 C型慢性肝炎の治療効果を規定する宿主側の因子としてIL28等の様々な要因がいられている。倫理委員会を通し、C型慢性肝炎患者様の血液から採取した各要因を分析する事でIFN治療の効果判定、製剤の選択等に生かせると考えている。			
医療技術名	脳波定量分析およびマッピング	取扱患者数	437人
当該医療技術の概要 脳波検査時に通常の計測、記録だけでなく、同時に脳波定量分析を行い、周波数帯域別に頭皮上分布の表示(マッピング)をする。これによって脳波の周波数帯域ごとの空間的变化を経時的に比較・検討することができ、薬剤性の脳機能異常や脳器質性疾患の検出、意識障害(せん妄等)の回復度判定などの臨床的判断を定量的な神経生理学的根拠に基づいて行うことができる。システムの保守・運営は臨床神経生理学認定医・認定技師により行われている。〔施行件数〕			
医療技術名	修正型電気通電療法	取扱患者数	191人
当該医療技術の概要 静脈麻酔下で筋弛緩を十分に得た状態で頭部電気通電を行う、修正型電気通電療法(modified electro-convulsive therapy(mECT))を、麻酔科の協力のもと手術室において行っている。薬物療法に治療抵抗性の精神障害(うつ病等の感情障害や統合失調症等)に対する有効性が多く報告されている治療法であるが、埼玉県西部における施行施設は当院だけであり、他施設では対応困難な難治性精神障害治療に関し、県内でその一翼を担っている。〔施行回数〕			
医療技術名	児童・思春期専門カウンセリング・療育訓練	取扱患者数	1,732人
当該医療技術の概要 広汎性発達障害等の児童・思春期に対し、児童・思春期専門医による診療を中心に、臨床心理士によるカウンセリングや言語聴覚士による療育訓練を組み合わせ、専門的な診療を展開している。他施設では対応困難な児童・思春期診療に関し、法人内「かわごえこどものこころクリニック」と連携し、県西部において重要な役割を果たしている。〔カウンセリング件数674回、療育訓練件数1,058回〕			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	110人	・膿泡性乾癬	11人
・多発性硬化症	117人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	145人	・原発性胆汁性肝硬変	864人
・全身性エリテマトーデス	2,067人	・重症急性膵炎	21人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	38人
・再生不良性貧血	17人	・混合性結合組織病	376人
・サルコイドーシス	167人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	36人	・特発性間質性肺炎	10人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	666人	・網膜色素変性症	78人
・特発性血小板減少性紫斑病	136人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	6人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	363人	・神経線維腫症	108人
・大動脈炎症候群	42人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	14人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	54人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	108人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	9人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	43人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	955人	・球脊髄性筋萎縮症	4人
・アミロイドーシス	29人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	22人
・後縦靭帯骨化症	31人	・肥大型心筋症	20人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	19人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	330人	・リンパ管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	1人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	38人	・黄色靭帯骨化症	17人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	808人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔手術(PPH)	・
・胎児心超音波検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	大学全体として年間6回(2ヶ月に1回) 各科毎として週1回程度(年間約50回)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 36例 / 剖検率 11.4%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	別所 正 美	血液内科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	持 田 智	消化器内科 ・肝臓内科	22,838 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	持 田 智	消化器内科 ・肝臓内科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
肝疾患の病態における性差：オステオポンチン転写に関わる女性固有転写因子の同定	持 田 智	消化器内科 ・肝臓内科	1,300 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期予後改善のための前向き研究	片 山 茂 裕	内分泌内科 ・糖尿病内科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
特定疾患患者の生活の質 (Quality of life, QOL) の向上に関する研究	小 森 哲 夫	神経内科 ・脳卒中内科	46,800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立	小 森 哲 夫	神経内科 ・脳卒中内科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	鈴 木 洋 通	腎臓内科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
治験の実施に関する研究 [L-7142 ニ]	大竹 明	小児科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
日本人長鎖脂肪酸代謝異常症の患者数把握と、治療指針作成および長期フォローアップ体制確立のための研究	大竹 明	小児科	26,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
ミトコンドリア呼吸鎖異常症の診断と分子病理に関する研究：小児高乳酸血症の病因解明	大竹 明	小児科	1,000 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチにおける炎症と動脈硬化	浅沼 ゆう	リウマチ 膠原病科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
Th17サブセットが炎症性疾患特に膠原病において果たす役割の解析	佐藤 浩二郎	リウマチ 膠原病科	5,000 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 7

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.3

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
びまん性肺疾患に関する調査研究	萩原 弘一	呼吸器内科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
薬剤性肺障害・特発性肺線維症急性増悪の 遺伝学的研究	萩原 弘一	呼吸器内科	5,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
ホモ接合ハプロタイプ法の改良と、それ による疾患遺伝子解析	萩原 弘一	呼吸器内科	2,800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり 方の研究と舌下ペプチド・アジュバンド療 法の臨床研究	永田 真	呼吸器内科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
成人を対象とした気管支喘息患者に対する 効果的な保健指導の実践に関する調査研究	永田 真	呼吸器内科	800 千円	補 環境保全再生 機構 委
IT・キッズ・インターネットを活用したアレルギー疾患の自 己管理および生活環境改善支援システム、遠隔 教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	永田 真	呼吸器内科	600 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性喘息の気道炎症病態の解析	永田 真	呼吸器内科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
難治性喘息におけるヘルパーT17型免疫 応答の意義に関する研究	中込 一之	呼吸器内科	1,400 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証に関する研究	石 原 理	産婦人科	1,500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
術中大量出血時の凝固障害機序の解明と止血のための輸血療法の確立-手術中の大量出血をいかにして防ぐか-	板 倉 敦 夫	産婦人科	700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
脱落膜化異常が関与する疾患の病態解明とその治療について	梶 原 健	産婦人科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
NKT細胞のアジュバント効果を応用したAPS制御の為の基礎的研究	鈴 木 元 晴	産婦人科	1,700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
骨代謝における神経制御機構の解明：転写因子Pax6を介したシグナル伝達について	加 藤 直 樹	整形外科 ・脊椎外科	600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
腰痛の診断、治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」	高 橋 啓 介	整形外科 ・脊椎外科	1,300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の形成再建手技の標準化	中 塚 貴 志	形成外科 ・美容外科	13,300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
p53欠損マウスを用いた再生軟骨周囲の軟骨膜様組織における再生誘導機構の解明	中 塚 貴 志	形成外科 ・美容外科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
難治性潰瘍に対する酸素環境設計と新しいバイオマテリアルによる血管新生療法の開発	市 岡 滋	形成外科 ・美容外科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 9

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
運動療法がメタボリック症候群の血管内皮・単球・血小板機能と動脈硬化に及ぼす影響	倉林 均	リハビリテーション科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
特発性耳石器障害によるめまいの診断基準および治療ガイドラインの作成	水野 正浩	神経耳科	700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
フォン・ヒッペルリンドウ病の病態調査と診断治療系確立の研究	米谷 新	眼科	1,100 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
35型アデノウイルスベクターによる遺伝子治療の開発とその遺伝子発現制御	森 圭介	眼科	2,000 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	中村 晃一郎	皮膚科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
パーチェット病に関する調査研究	中村 晃一郎	皮膚科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	倉持 朗	皮膚科	1,100 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
HUMARA assayおよび免疫染色を用いた咀嚼筋腱膜過形成症の病態解明	依田 哲也	歯科・口腔外科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

1 研究費補助等の実績

No.6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨細胞分化および細胞間ネットワーク制御におけるsemaphorinの関与の検討	佐藤 毅	歯科・口腔外科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
高齢者に多発する誤嚥性肺炎、感染症、口腔乾燥症の予防、診査用マルチ口腔機能測定装置の開発	依田 哲也	歯科・口腔外科	800 千円	補 独立行政法人 科学技術振興 機構 委
Calciophylaxis の診断・治療に関わる調査・研究	中元 秀友	総合診療内科	1,500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 3
合計 43

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.1

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床血液 50;481-486, 2009	Major bcr-abl mRNA 定量におけるTMA法 (Amp-CML) と Realtime quantitative PCR の相関	別所正美	血液内科
Int J Hematol 89;460-469, 2009	Phase I/II study of humanized anti-CD33 antibody conjugated with calicheamicin, gemtuzumab ozogamicin, in relapsed or refractory acute myeloid leukemia: final results of Japanese multicenter cooperative study.	別所正美	血液内科
Intern Med 49;227-230, 2010	Plasma cell granuloma of the sigmoid colon associated with diverticular disease and accompanying IgM-type monoclonal gammopathy.	中村裕一	血液内科
Hepatology International 3;445-452, 2009	Antiviral activity, dose-response relationship, and safety of entecavir following 24-week oral dosing in nucleoside-naive Japanese adult patients with chronic hepatitis B: a randomized, double-blind, phase II clinical trial.	持田智	消化器内科 ・肝臓内科
Nature genetic 41;1105-1109, 2009	Genome-wide association of IL28B with response to pegylated interferon-alpha and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	持田智	消化器内科 ・肝臓内科
Emerg Infect Dis 15;704-709, 2009	Virulent strain of hepatitis E virus genotype 3, Japan.	持田智	消化器内科 ・肝臓内科
Transplantation 88;110-114, 2009	Donor complications associated with living donor liver transplantation in Japan.	持田智	消化器内科 ・肝臓内科
肝臓 50;38-42, 2009	免疫抑制・化学療法におり発症するB型肝炎対策	持田智	消化器内科 ・肝臓内科
Hepatol Res 39;648-656, 2009	Case-control study for the identification of virological factors associated with fulminant hepatitis B.	中山伸朗	消化器内科 ・肝臓内科

計 9

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Atheroscler Thromb 17:73-83, 2010	A promoter in the novel exon of hPPARgamma directs the circadian expression of PPARgamma	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
Diabetologia 52:2513-2521, 2009	Differential association of HLA with three subtypes of type 1 diabetes: fulminant, slowly progressive and acute-onset.	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
Metabolism 58:583-585, 2009	アカルボースは食後高脂血症を改善する	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 297:G207-G214, 2009	リゾフォスファチジルコリンの小腸刷子縁アルカリフォスファターゼの分泌における役割	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
J. Atheroscler Thromb 16:380-387, 2009	日本人2型糖尿病患者の心血管疾患予測因子としてのメタボリックシンドロームとその構成要素: JDCSでの検討	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Circulation Research 104:842-850, 2009	キノンオキシドレダクターゼ1は、平滑筋増殖を抑制することにより動脈の再狭窄を防ぐ	犬飼 浩一	内分泌内科 ・糖尿病内科
血圧 19:57-60, 2009	糖尿病合併高血圧患者199例に対するARB (ロサルタン50mg) /少量利尿薬 (ヒドロクロチアジド12.5mg) の臨床使用成績	犬飼 浩一	内分泌内科 ・糖尿病内科
Intern Med 48:1357-1361, 2009	Comparison of the anti-hypertensive effects of the L/N-type calcium channel antagonist cilnidipine, and the L-type calcium channel antagonist amlodipine in hypertensive patients with cerebrovascular disease.	荒木 信夫	神経内科 ・脳卒中内科
Internal Medicine 48:1183-1185, 2009	Gabapentin for Kleine-Levin syndrome.	荒木 信夫	神経内科 ・脳卒中内科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.3

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
東京都医師会雑誌 62:721-725, 2009	多発性筋炎様症状で急性に発症したサルコイドミオパチーの75歳女性例	荒木 信夫	神経内科・ 脳卒中内科
発汗学 15:80-82, 2009	分節型発汗異常とヘルペス感染	荒木 信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Mov Disord 15:1977-1983, 2009	Fatigue in Japanese patients with Parkinson's disease: a study using Parkinson fatigue scale.	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科
臨床神経学 50:103-107, 2010	妊娠中に発症し、抗NMDA受容体抗体が陽性であった非ヘルペス性辺縁系脳炎の1例	富岳 亮	神経内科・ 脳卒中内科
Clinical Neuropathology 28:373-378, 2009	Podoplaninはependymomaの診断に有用なマーカーである: epithelial membrane antigen (EMA)との比較研究	石澤 圭介	神経内科・ 脳卒中内科
Curr Neurovasc Res 7:23-31, 2010	Nitric oxide production during cerebral ischemia and reperfusion in eNOS- and nNOS-knockout mice.	伊藤 康男	神経内科・ 脳卒中内科
臨床脳波 52:73-79, 2010	【筋萎縮性側索硬化症】筋萎縮性側索硬化症の初期呼吸障害評価のための横隔膜電気生理検査の有用性	大江 康子	神経内科・ 脳卒中内科
Anesthesiology 111:279-286, 2009	Beneficial Effect of Propofol on Arterial Adenosine Triphosphate-sensitive K ⁺ Channel Function Impaired by Thromboxane.	東 俊晴	麻酔科
J Thromb Thrombolysis 27:280-286, 2009	Prothrombotic roles of substance-P, neurokinin-1 receptors and leukocytes in the platelet-dependent clot formation in whole blood.	東 俊晴	麻酔科
明海歯科医学 38:182-187, 2009	歯科全身麻酔症例における周術期肺合併症に関する研究(原著)	星島 宏	麻酔科

計 10

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.4

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Japanese Journal of Radiology 28;79-85, 2010	An innovative radiographic system to improve the sharpness of radiographs: could a phase-shift effect contribute to improved image-quality for plain computed radiographs for general use?	田中 淳 司	放射線科
日本臨床外科学会雑誌 70;1402-1405, 2009	非ステロイド系消炎鎮痛剤による小腸膜様狭窄の1例	篠塚 望	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌 71;643-647, 2010	鼠径部ヘルニア嵌頓症例に対するクーゲル法による治療経験- t 6	浅野 博	消化器・一般外科
Int. J. Bio. Sci 5;444-450, 2009	Essential Role of mTor/Akt Pathway in Aurora-A Cell Transformation	多賀 誠	消化器・一般外科
J Child Neurol 24;1439-1445, 2009	Central nervous system germ cell tumors: classification, clinical features, and treatment with a historical overview.	藤巻 高光	脳神経外科
Acta Neurochirgia (Wien) 152;279-285, 2010	Interdural approach to parasellar tumors. 海綿静脈洞近傍腫瘍に対する硬膜間到達法	小林 正 人	脳神経外科
日小外会誌 45;48-52, 2009	Ewing肉腫ファミリー腫瘍の3例	大野 康 治	小児外科
日小外会誌 45;928-935, 2009	意識度調査に基づく腹腔鏡補助下虫垂切除術(臍部 one trocar法)の評価と今後の意識度調査のあり方についての考察	大野 康 治	小児外科
日本腹部救急医学会雑誌 29;53-57, 2009	救急処置を必要とした小児の下血疾患	大野 康 治	小児外科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nc 2;192-193, 2009	高血圧を伴った慢性腎臓病患者におけるカルシウム拮抗薬のA Iに対する長期効果	竹中恒夫	腎臓内科
Clin Exp Hypertens 31;657-668, 2009	糖尿病では反射派は一定しない	竹中恒夫	腎臓内科
Am J Hypertens 23;260-268, 2010	日本の高血圧患者における降圧薬の中心動脈圧に対する効果	竹中恒夫	腎臓内科
Clin Exp Hypertens 31;220-230, 2009	非糖尿病腎症においてTRは腎機能悪化の指標である	竹中恒夫	腎臓内科
NDT Plus 2;263-264, 2009	末期腎不全患者には帯状疱疹が多い	竹中恒夫	腎臓内科
Am J Nephrol 30;274-279, 2009	D1-Like Receptor Antagonist Inhibits IL-17 Expression and Attenuates Crescent Formation in Nephrotoxic Serum Nephritis.	井上勉	腎臓内科
Biochem Biophys Res Commun 383;460-463, 2009	Dopamine D1-like receptor antagonist, SCH23390, exhibits a preventive effect on diabetes mellitus that occurs naturally in NOD mice.	井上勉	腎臓内科
Clin Exp Nephrol 13;385-388, 2009	A case report suggesting the occurrence of epithelial-mesenchymal transition in obstructive nephropathy.	渡邊裕輔	腎臓内科
Clinical and Experimental Hypertension 31;657-658, 2009	Zigzagged augmentation index in diabetes.	末吉慶多	腎臓内科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.6

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床化学 38;440-444, 2009	HbA1c測定におけるIFCC値併記に関する指針 (Ver. 2. 0:2008-10-06) 追補 HbA1c測定における IFCC値併記に関する校正手順 (Ver. 2. 0)	雨宮伸	小児科
Exp Clin Endocrinol Diabetes 118;195-199, 2010	Nocturnal blood glucose and IGFBP-1 changes in type 1 diabetes: Differences in the dawn phenomenon between insulin regimens.	雨宮伸	小児科
J Toxicol Sci 34;SP237-243, 2009	Children's toxicology from bench to bed - Liver Injury (4): Mitochondrial respiratory chain disorder and liver disease in children.	大竹明	小児科
J Biol Chem 284;7149-7156, 2009	Constitutively activated ALK-2 and increased Smad1/5 cooperatively induce BMP signaling in fibrodysplasia ossificans progressiva.	大竹明	小児科
Mol Genet Metab 97;292-296, 2009	Fluctuating liver functions in siblings with MPV17 mutations and possible improvement associated with dietary and pharmaceutical treatments targeting respiratory chain complex II.	大竹明	小児科
Biochim Biophys Acta (General Subjects) 1800;313-315, 2010	Pyruvate therapy for Leigh syndrome due to cytochrome c oxidase deficiency.	大竹明	小児科
栃木県医学会々誌 39;99-102, 2009	Asperger症候群を早期に診断するための初期徴候 の検討.	山内秀雄	小児科
日本小児科学会雑誌 113;876-877, 2009	獨協医科大学小児科における在宅人工呼吸器療法 の現状	山内秀雄	小児科
Neonatology 95;332-338, 2009	Bronchopulmonary dysplasia の新生仔マウスモデ ルにおいてHepatocyte growth factorによる治療 は肺胞化を改善する	徳山研一	小児科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.7

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neonatology 96;219-225, 2009	Integrated backscatter systemにて測定した脳室周囲のエコー濃度	徳山研一	小児科
Pediatr Allergy Immunol 20;227-233, 2009	生後1年以内の喘鳴児における臍帯血サイトカインレベル	徳山研一	小児科
Clin Exp Hypertens 31;220-230, 2009	Time for reflection predicts the progression of renal dysfunction in patients with nondiabetic chronic kidney disease.	三村俊英	リウマチ膠原病科
Arthritis care & Research 61;1580-1585, 2009	Inflammatory mediators and premature coronary atherosclerosis in rheumatoid arthritis.	浅沼ゆう	リウマチ膠原病科
Am J Nephrol 29;153-163, 2009	Tetracycline-inducible gene expression in conditionally immortalized mouse podocytes.	梶山浩	リウマチ膠原病科
Rheumatol Int 29;459-461, 2009	Efficacy of tacrolimus in infliximab-refractory progressive rheumatoid arthritis.	横田和浩	リウマチ膠原病科
Immunity 30;912-925, 2009	ゲノムワイドなヒストンメチル化の解析により判明した、クロマチン状態に基づくメモリーCD8陽性T細胞の遺伝子発現と機能の複雑な調節	荒木靖人	リウマチ膠原病科
肺癌(日本肺癌学会) 49;1-65, 2009	肺癌患者におけるEGFR遺伝子変異検査の解説	萩原弘一	呼吸器内科

計 8

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.8

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Arch Allergy Immunol 152 Suppl 1 :41-46, 2010	Changes in airway inflammation and hyperresponsiveness after inhaled corticosteroid cessation in allergic asthma.	永田 真	呼吸器内科
喘息 22:44-50, 2009	米国喘息管理・治療ガイドライン(BPR3)をめぐって EPR3の特徴	中込 一之	呼吸器内科
Int Arch Allergy Immunol 149:14-20, 2009	Intratracheal delivery of hepatocyte growth factor directly attenuates allergic airway inflammation in mice	中込 一之	呼吸器内科
Int Arch Allergy Immunol. 149:25-30, 2009	Upregulation of lung dendritic cell functions in elastase-induced emphysema	中込 一之	呼吸器内科
アレルギー 58:657-664, 2009	局所麻酔薬アレルギー疑い例におけるチャレンジ・テストの臨床的検討	中込 一之	呼吸器内科
J Immunol 183:209-220, 2009	IFN-gamma attenuates antigen-induced overall immune response in the airway as a Th1-type immune regulatory cytokine	中込 一之	呼吸器内科
分子呼吸器病 14:21-31, 2010	喘息治療薬シムビコート(ブデソニド/フォルモテロール配合剤)	中込 一之	呼吸器内科

計 7

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.9

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Fertil Steril 92;1520-1524, 2009	International Committee for Monitoring Assisted Reproductive Technology (ICMART) and the World Health Organization (WHO) revised Glossary on ART Terminology 2009.	石原 理	産婦人科
Fertil Steril 91;2281-2294, 2009	The economic impact of assisted reproductive technology:a review of selected developed countries.	石原 理	産婦人科
Hum Reprod 24;2683-2687, 2009	The International Committee for Monitoring Assisted Reproductive Technology (ICMART) and the World Health Organization (WHO) revised Glossary on ART Terminology 2009.	石原 理	産婦人科
Hum Reprod 24;2310-2320, 2009	World collaborative report on assisted reproductive technology, 2002.	石原 理	産婦人科
日本女性骨盤底医学会誌 6;60-63, 2009	Tension-free Vaginal Mesh法を用いた性器脱手術症例の検討～術後再発を防ぐための工夫～	岡垣 竜吾	産婦人科
Med Mol Morphol 42;216-221, 2009	Increased ovarian follicle atresia in obese Zucker rats is associated with enhanced expression of the forkhead transcription factor FOXO1.	梶原 健	産婦人科
J Med Ultrasonics 36;193-199, 2009	Bladder neck evaluation by perineal ultrasound before and after reconstructive surgery for pelvic organ prolapse.	西林 学	産婦人科
産婦人科の実際 58;1539-1542, 2009	女性骨盤臓器脱根治手術後の一過性排尿障害に対する $\alpha 1$ 受容体遮断薬・タムスロシン塩酸塩の有用性に関する検討	西林 学	産婦人科

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.10

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本更年期医学会雑誌 17;121-124, 2009	中高年女性のための運動ガイドライン	難波 聡	産婦人科
J Immunol 183;201-208, 2009	Cytokine-Dependent Modification of IL-12p70 and IL-23 Balance in Dendritic Cells by Ligand Activation of V 24 Invariant NKT Cells.	鈴木 元 晴	産婦人科
臨床精神医学 38;1249-1255, 2009	他病院救命救急科との24時間即応連携の試み —自殺企図事例への院外往診による対応— その可能性と問題点—	松岡 孝 裕	神経精神科 ・心療内科
Jpn J Radiol 28;79-85, 2010	Innovative radiographic system to improve the sharpness of radiographs: could a phase-shift effect contribute to improved image-quality for plain computed radiographs for general use?	織田 弘 美	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 35;286-289, 2009	関節温存術後に進行した進行期・末期股関節症に施行したChiari併用大腿骨外反骨切り術の短期成績	織田 弘 美	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 35;298-300, 2009	大転子高位扁平股に対する寛骨臼回転骨切り術と大腿骨転子部外反骨切り術併用手術の術後短期成績	織田 弘 美	整形外科 ・脊椎外科
関東震災 40;154-157, 2009	腰部脊柱管狭窄症と閉塞性動脈硬化症の合併例の検討	高橋 啓 介	整形外科 ・脊椎外科
脊椎脊髄 22;247-253, 2009	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術—適応、成績、最近の動向	高橋 啓 介	整形外科 ・脊椎外科

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.11

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
埼玉医科大学雑誌 36;40188, 2009	下肢血流障害に対する鍼治療の効果	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
Wound Repair Regen 17;312-317, 2009	褥瘡治療におけるPOSSUMの有用性	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
Wound Repair Regen 17;492-497, 2009	骨髄コラーゲン治療における治癒決定因子	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会誌 29;226-229, 2009	炭酸泉浴による創傷治癒効果の実験的検討	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会誌 29;721-726, 2009	炭酸泉足浴の微小循環・創傷治癒に対する効果 臨床的検討	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会誌 29;698-702, 2009	静脈性潰瘍に対する内視鏡的筋膜下不全穿通枝切 断術の経験	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
Cleft Palate Craniofac J 46;494-497, 2009	Video recording study of infants undergoing primary cheiloplasty: Are arm restraints really needed?	時岡 一幸	形成外科 ・美容外科
PEPARS 34;91-96, 2009	bFGFを応用した遊離植皮術	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科
日本頭蓋顎顔面外科学会 誌 25;305-310, 2009	放射線下顎骨壊死に対する遊離組織移植による再 建術	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arch Gerontol Geriat 51;205-208, 2009	Platelet activation is caused not by aging but by atherosclerosis	倉林 均	リハビリテーション科
Dysphagia 24;183-191, 2009	Successful treatment of pulmonary aspiration due to brain stem infarction by using cough exercise based on swallowing scintigraphy: Preliminary observations	倉林 均	リハビリテーション科
J Stroke Cerebrovasc Dis 18;294-297, 2009	Is insulin resistance related recurrence of stroke or incident of ischemic heart disease in patients with stroke? A preliminary report	菱沼 亜紀子	リハビリテーション科
JOHNS 25;1649-1652, 2009	ステロイドは深頸部感染症の治療に必要か?	加瀬 康弘	耳鼻咽喉科
日本耳科学会 19;654-659, 2009	自己フィブリン糊を用いた鼓膜形成術(接着法)の術後成績	柴崎 修	耳鼻咽喉科
JOHNS 25;861-864, 2009	メニエール病患者に対する生活指導	伊藤 彰紀	神経耳科
耳鼻咽喉科臨床 103;291-301, 2009	第8脳神経に対する神経圧迫症候群について	伊藤 彰紀	神経耳科
Retina 29;1450-1456, 2009	Photodynamic effects on retinal oxygen saturation, blood flow, and electrophysiological function in patients with neovascular age-related macular degeneration.	森 圭介	眼科
日眼会誌 114;7-13, 2010	視力良好な滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学的療法の治療成績.	森 圭介	眼科

計 9

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Scand J Rheumatol 38;494-495, 2009	シェーグレン症候群に合併した皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫	倉持 朗	皮膚科
皮膚病診療 31;1055-1058, 2009	ATLLを合併し、水疱形成を伴った皮膚筋炎	今井 聖	皮膚科
Eur J Dermatol 19;368-371, 2009	小児水疱性類天疱瘡の2例	外山 知子	皮膚科
Japanese Journal of Endourology and ESWL 22;39-46, 2009	【エキスパートが示す内視鏡手術のコツ 経尿道的前立腺手術の臨床成績 最新の手技を中心に】 PlasmaKinetic (PK) systemを用いたTURPとEVOLVE SLV (Celalas HPD980) ダイオードレーザー発生装置を用いた前立腺蒸散術の試用経験	矢内原 仁	泌尿器科
Cancer Research UK 101;598-604, 2009	Stage I, II, IIIAリンパ節転移陽性乳癌に対する術後補助療法としてのUFT+タモキシフェンとCMF+タモキシフェンの比較	大崎 昭彦	乳腺腫瘍科
Oncology Letters 1;45-49, 2010	転移乳癌におけるUFT+パクリタクセル併用療法の増量第I相試験	大崎 昭彦	乳腺腫瘍科
Oncology Reports 22;1181-1187, 2009	乳癌の微小転移センチネルリンパ節におけるFOXP3の発現	大崎 昭彦	乳腺腫瘍科
臨床放射線 54;1576-1583, 2009	乳癌緩和治療の目指すもの-緩和的放射線療法の役割について	大崎 昭彦	乳腺腫瘍科

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.14

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 108;544-550, 2009	Immunoglobulin G4-related sclerosing sialadenitis: report of two cases and review of the literature.	坂田 康彰	歯科・口腔外科
FEBS Lett 584;817-824, 2010	Functional role of acetylcholine and the expression of cholinergic receptors and components in osteoblasts.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
J Biol Chem 285;15577-15586, 2010	Dual roles of SMAD proteins in the conversion from myoblasts to osteoblastic cells by bone morphogenetic proteins.	依田 哲也	歯科・口腔外科
Annals of Diagnostic Pathology 13;394-397, 2009	Ghost cell odontogenic carcinoma arising in calcifying odontogenic cyst.	依田 哲也	歯科・口腔外科
Internatuonal Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 38;1143-1147, 2009	Long-term results of surgical therapy for masticatory muscle tendon-aponeurosis hyperplasia accompanied by limited mouth opening.	依田 哲也	歯科・口腔外科
J Bone Miner Res 25;653-660, 2010	Protein Phosphatase Magnesium-Dependent 1A-Mediated Inhibition of BMP Signaling is Independent of Smad Dephosphorylation.	依田 哲也	歯科・口腔外科
Asian J. Oral Maxillofac Surg 21;18-26, 2009	Transforming Growth Factor- β 1 in Combination with Fibroblast Growth Factor-2 and Insulin-like Growth Factor-1 for Chondrocyte Proliferation Culture and Cartilage Regenerative Medicine.	依田 哲也	歯科・口腔外科

計 7

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ther Apher Dial 13;457-504, 2009	An overview of regular dialysis treatment in Japan (as of 31 December 2007).	中元秀友	総合診療内科
Nephrol Dial Transplant 25;1251-1257, 2009	Effect of a novel kappa-receptor agonist, nalfurafine hydrochloride, on severe itch in 337 haemodialysis patients: a Phase III, randomized, double-blind, placebo-controlled study.	中元秀友	総合診療内科
Am J Kidney Dis 53;357-358, 2009	Percutaneous transesophageal gastrotubing for a feeding disorder in a patient receiving peritoneal dialysis.	中元秀友	総合診療内科
Nephron Clin Pract 113;C183-C190, 2009	Higher survival rates of chronic hemodialysis patients on anti-hypertensive drugs.	中元秀友	総合診療内科
Biochem Biophys Res Commun 383;460-463, 2009	ドーパミン1型受容体阻害薬SCH23390はNODマウスにおいて糖尿病発症抑制効果を示す	岡田浩一	総合診療内科
Am J Nephrol 30;274-279, 2009	ドーパミン1型受容体阻害薬はインターロイキン17の発現を抑制し、抗腎抗体腎炎の半月体形成を抑制する	岡田浩一	総合診療内科
NDT Plus 2;192-193, 2009	慢性腎疾患をともなう高血圧患者の動脈硬化に対するカルシウム拮抗薬の長期効果	岡田浩一	総合診療内科
Cancer Chemother Pharmacol ;Epub ahead of print , 2009	Association of UGT2B7 and ABCB1 genotypes with morphine-induced adverse drug reactions in Japanese patients with cancer.	兒玉圭司	総合診療内科
Ann Oncol 20;946-949, 2009	Fixed dosing and pharmacokinetics of S-1 in Japanese cancer patients with large body surface areas.	兒玉圭司	総合診療内科

計 9

- (注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.16

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床病理 57;834-841, 2009	市販飲料水による尿試験紙法検査(潜血反応、糖定性)への影響	池田 齊	健康管理センター
日本総合健診学会誌 37;183, 2010	住民健康診断における、耐糖能異常検査としての尿中ミオイノシトールの検討	池田 齊	健康管理センター
糖尿病 52;537-545, 2009	インタクトプロインスリン/インスリンモル比の特徴と臨床的意義(その1)-基準値の設定と耐糖能障害における膵β細胞機能との関係-	今井 康雄	健康管理センター
人間ドック 24;879-884, 2009	食事負荷試験における尿中ミオイノシトールと耐糖能の関係	今井 康雄	健康管理センター
人間ドック 23;1031-1035, 2009	尿中ミオイノシトール測定による耐糖能異常群の2次スクリーニング検査法	足立 雅樹	健康管理センター
Clin Immunol 135;459-465, 2010	Enhanced expression of lymphomagenesis-related genes in peripheral blood B cells of lymphomagenesis-related genes in peripheral blood B cells of chronic hepatitis C patients.	池淵 研二	中央検査部
Int J Cancer 126;651-655;2010	Frequency of and variables associated with the EGFR mutation and its subtypes.	池淵 研二	中央検査部
J Interferon Cytokine Res 30;43-52, 2010	Possible recruitment of peripheral blood CXCR3+CD27+ CD19+ B cells to the liver of chronic hepatitis C patients.	池淵 研二	中央検査部

計 8

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.17

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med 49;227-230, 2010	憩室症とIgM型単クローン性ガンモパシーを伴った S状結腸形質細胞性肉芽腫	茅野 秀一	病理学
Leuk Res 33;728-730, 2009	腎生検で早期に診断した腎血管内大細胞型B細胞リ ンパ腫	茅野 秀一	病理学
Bioelectromagnetics 31;104-112, 2010	1950 MHz IMT-2000電磁波は培養ミクログリアを 活性化しない	佐々木 惇	病理学
Brain Res 1250;232-241, 2009	ヒトアルファ-シヌクレインTGマウスにおいて L-DOPA投与によって改善された運動障害	佐々木 惇	病理学
Pathology International 60;65-70, 2010	Reassessment of histopathology and dermoscopy findings in 145 Japanese cases of melanocytic nevus of the sole: Toward a pathological diagnosis of early-stage malignant melanoma in situ.	新井 栄一	病理学
Scand J Rheumatol 38;494-495, 2009	Subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma accompanied by Sjögren's syndrome.	新井 栄一	病理学
病理と臨床 27;775-779, 2009	薬剤性皮膚障害 b) 病理	新井 栄一	病理学

計 7

合計 143

- (注)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 片山 茂裕		
管理担当者氏名	医務部長	奥富 篁幸	総務部長 茂木 明
	薬剤部長	北澤 貴樹	医療安全対策室長 金澤 實
	利用者相談室長	斉藤 喜博	

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室 医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及びCR化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課
	高度の医療の提供の実績	医務部
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部
	高度の医療の研修の実績	医務部
	閲覧実績	医務部
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室
	規則第一項各号及び第九	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室
	規則第二十三	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室
	規則第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者相談室

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	第規 一則 号第 に一 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況 第九 条の 二十 三第 一 項	医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	MEサービス部
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	MEサービス部
		医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	MEサービス部
		医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	MEサービス部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 総務部長 茂木 明 薬剤部長 北澤 貴樹
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	2 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	46.7 %	算定期間	平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	14,288 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,227 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,139 人	
	D：初診の患者の数	45,705 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

①医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <p>1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。</p> <p>2. 診療基本マニュアル第10版：平成22年8月1日刷（平成10年5月6日，初版一刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、机上版のほかマニュアルの要点をまとめたポケット版がある。机上版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は、「診療の基本」「正しい保険診療」「医療安全の基本」「医療安全対策（総論）」「医療安全対策（各論）」「問題発生時等への対応」の六章から構成されている。掲載内容は診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。</p> <p>3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準，手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっている。マニュアル集の主な収録内容は次の通りである。診療基本マニュアル机上版，医薬品業務手順書第3版（薬剤部），消毒薬使用指針，麻薬管理マニュアル，向精神薬管理マニュアル，褥瘡対策マニュアル，感染性廃棄物取扱手順書，医療ガス保守点検指針，指定施設等不在者投票処理要領，輸血の手順。</p> <p>4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル - 全5編 - （情報システム部），放射線科診療安全マニュアル（中央放射線部），看護基準・手順（看護部），診療記録等の開示実施マニュアル（医療情報提供委員会），災害対策マニュアル（施設部），血液浄化マニュアル（血液浄化部），医療機器安全管理指針（中央機材室・MEサービス部），学校法人埼玉医科大学規程集</p>	
②医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。委員長は病院長をとし、下部専門小委員会において検討し再発防止策等立案した「ヒヤリ・ハット事例」，「アクシデント事例」の決定を担っている。決定事項は、科長会議において報告，審議される。</p>	

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			年 26 回
研修の主な内容：表の通り			
研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数
マニュアル講習	4月3日	診療基本マニュアル講習	67
講演会	4月24日	安全確保と保険診療	264
講演会	5月12日	呼吸サポートチームと安全確保	69
学習会	6月26日	病院の安全と5S活動	51
学習会	7月24日	診療における危険予知	114
学習会	8月28日	根本要因分析(RCA)	33
学習会	9月18日	職種間の良好なコミュニケーション	53
研修会	10月16日	安全な医療提供のための技術講習①	25
学習会	10月23日	医療事故について考える	32
研修会	10月26日	安全な医療提供のための技術講習②	27
研修会	11月6日	安全な医療提供のための技術講習③	29
研修会	11月16日	安全な医療提供のための技術講習④	28
研修会	11月26日	安全な医療提供のための技術講習⑤	19
講演会	11月27日	モンスターペーシェントについて	359
研修会	12月9日	安全な医療提供のための技術講習⑥	28
マニュアル講習	11/4・5・18・12/22	結核対策マニュアル講習会	1573
研修会	1月19日	医薬品業務手順-医薬品の安全使用	191
研修会	1月19日	臨床研究について	193
研修会	1月19日	医療機器安全管理-医療機器の安全使用	171
学習会	1月22日	安全な業務を遂行するためには	65
講演会	2月2日	栄養管理と感染対策	181
研修会	2月5日	クレームを信頼に変える対応マナー	212
学習会	2月19日	医療現場におけるリスクを考える	15

④医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ヒヤリ・ハット事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療安全対策小委員会委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を前記小委員会(月1回開催)において検討する。検討された内容は、科長会議、看護師長会議、医療安全対策実務者に伝達され、各部署へフィードバックならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>ヒヤリ・ハット事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

⑤専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④(1名)・無
⑥専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④(1名)・無
⑦医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④・無
・所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 8 ）名 ・活動の主な内容： 大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。 1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項 2. 事故発生時の対応状況についての確認 3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動 4. 医療安全対策の企画，立案，実施，評価，記録 5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整 6. 医療安全に関連する委員会の議事録，資料の作成ならびに保存 7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認 8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認	
⑧当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④・無

(様式第13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	(有) ・ 無
・ 指針の主な内容：基本的な考え方、組織および体制に関する基本的事項、従事者に対する研修の関する基本方針、感染症発生時の報告、感染症発生時の対応と連絡、報告体制、患者等に関する当該指針の閲覧指針の主な内容：	
②院内感染対策のための委員会の開催状況	(有) ・ 無
・ 活動の主な内容：分離菌報告、耐性菌報告と現状報告、ICTラウンドおよび報告、手指衛生サーベイランス報告、職業感染防止対策（針刺し切創・ワクチン接種など）、VRE・結核委員会報告	
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	(有) ・ 無
・ 研修の主な内容： 2009年4月30日 新型インフルエンザ対応に係わる情報提供 5月11日 新型インフルエンザ対応訓練 5月15日 新型インフルエンザ対応（発熱外来）シュミレーション 5月12日～29日 PPE着脱訓練 5月12, 18日 新型インフルエンザ対応訓練 5月15日 院内感染における臨床微生物検査の役割（外部講師） 12月4日 新型インフルエンザの対応と対策（外部講師） 2010年2月1日 ノロウイルスの吐物の取扱方法 2月2日 栄養管理と感染対策（外部講師） 3月17日 自分も患者も感染から守る！ 3月30日 感染対策の基本 3月31日 手洗いとPPEの着脱デモンストレーション	
④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ICT通信、感染対策NEWSにMDRPおよびVRE発生状況を掲載 ICTラウンド報告書による現場へのフィードバックし、共有 針刺し切創サーベイランス、手指衛生サーベイランスの実施	

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回程度
<p>・ 研修の主な内容：21年度研修 医療安全全体会において医薬品安全使用のための業務手順書の講習（平成22年1月19日） 看護師研修で医薬品の安全使用について講習（平成21年7月13日、平成21年10月24日） 薬剤師研修で医薬品の安全使用について講習（平成21年11月25日）</p>	
③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （ ① 有 ・ 無 ） 平成19年4月制定 （平成21年11月第3版改編） ・ 業務の主な内容 ： 医薬品安全使用のための業務手順書の改編を行い医療安全全体会にて講習会を行った。（平成22年1月19日） 年2回程度巡回を行い医薬品安全使用状況の点検を実施・指導</p>	
④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ① 有 ・ 無 ） 医薬品情報管理室で情報を収集し、毎月医薬品情報誌を作成配布 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 緊急性の高い情報は当日又は翌日に全科に配布している。 定数注射薬使用期限のチェック体制の強化</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： ① 春季新入職医師・看護師対象、診療基本マニュアル機器講習会（人工呼吸器、除細動器） ② 秋季医療機器安全講習会 （人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニタ、除細動器等） ③ 医療機器安全使用講習会	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （ ① 有 ・ 無 ） ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、閉鎖機器保育器、ライナック、輸液ポンプ、シリンジポンプ、ネブライザ、手術室医療機器各種点検	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ① 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 中央機材室ニュース、学内LAN（イントラネット）ホームページに配信	